

●賢問愚問●解説コーナー

質問

実像の隠れキリシタン信仰の解明 隠れキリシタンとは、実際に隠れてキリスト教を信仰していたのでしょうか、具体的に解説してください。

[回答者] 宮崎 賢太郎

夢とロマンのキリシタン史観

長崎県では来年度の「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録の最終審査に向けて、県民一体となって華々しい運動が展開されている。テレビや新聞・雑誌・写真集・観光案内のパンフレットなどではしばしばキリシタンが採り上げられているが、一つの面白い現象に気づいた。そこには判で押したように、海のかなたの水平線に真つ赤な夕陽が沈んでゆく場面、レンガ作りの教会、その脇には十字架のついた墓碑群がひっそりとたたずむ風景、教会のステンドグラスの幻想的な光、白いベールをかぶり敬虔な祈りを捧げる老女の姿が採り上げられている。キャッチフレーズも決まったように「夢とロマンの祈りの島○○」である。

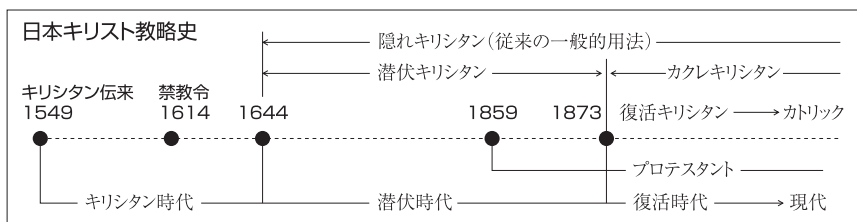
夢とロマンあふれるシーンに現代人が心惹かれるのは、昨今

のヒーリングブームに乗って人々が癒しを求めているからでもあるのか。そのこと自体に何の問題もないのであるが、歴史を扱う立場として気をつけねばならぬのは、「夢とロマンの物語」はあくまでもヴァーチャルなフィクションの世界であるという点である。日本のキリシタンの歴史には確かに徹底的に弾圧を蒙り、多数の殉教者を出し、隠れ、隠してきた事実があるだけに、秘められた悲しいロマン的性格を有しているのは否めない。

誤った「隠れキリシタン」認識とは

従来のキリシタン研究において、その歴史認識に大きな混乱を招いてきたのは、主要な言葉の定義が極めて曖昧であり、信仰に基づく主観的な性格を帯びていることに起因している。その代表的な言葉は、本稿のタイトルともなっている「隠れキリシタン」である。まずは日本におけるキリスト教の略史（二七頁参照）を見ていただこう。一五四九（天文一八）年のザビエルによるキリシタン伝来に始まる、四六〇年あまりにおよぶその歴史の簡略な見取り図である。

キリシタン伝来より一六四四（正保元）年までの約一〇〇年間を「キリシタン時代（キリシタンの世紀）」と呼ぶ。キリシタン時代の前半は、多数のキリシタン大名の出現により、民衆層にいたるまで集団改宗によって、急速に受洗者数が増加した



時期である。一六一四（慶長一九）年に幕府によってキリシタン禁教令が発布され、全国に徹底したキリシタン弾圧が開始され、その後三〇年間は、迫害と殉教が最も厳しい時代であった。一六四四年、日本に最後まで生き残っていたイエズス会宣教師小西マンショが殉教し、信徒だけの「潜伏時代」に入ってゆく。「復活時代」は、一八六五（慶応元）年に大浦天主堂内でプチジャン神父と、長崎の浦上村の潜伏キリシタン信徒が再会した時、あるいは一八七三年（明治六）にキリシタン禁教令の高札が取り下げられた時という二説があるが、筆者は後者でなければならぬと主張している。

これまでキリシタン史の認識を誤らせてきたのは、略史の最上段に示したように、多くのキリシタン研究者やマスコミ関係者が、江戸初期の潜伏時代の開始時より、復活の時代を経て現代

にいたるまで、「隠れキリシタン」という名称でひとくくりにして呼んできたことにある。「隠れキリシタン」という言葉の中には、「鎖国体制が完成し潜伏時代に入ると、隠れキリシタンたちは表向き仏教徒を装いながら、心の中で秘かにキリシタンの信仰を守り通した。幕末にカトリックの宣教師の再渡来によってキリシタンは復活したが、現在にいたるまでその信仰を隠れて守り続けている人々も存在する」という明らかに事実と相違するキリシタン史理解が如実に示されている。

潜伏時代の信仰の実像

筆者は今述べたようなあまりにもステレオタイプなキリシタン史理解が、いかに史実から遠いものであるかを明らかにしようとする。その結論は、潜伏時代のキリシタンたちが何かを命がけで守り通してきたことは確かであるが、その何かとは、決してキリスト教への信仰ではなく、先祖が大切に祀ってきたものを、たとえそれが何であるのか理解できなくとも、絶やすことなく守り続けることが子孫の務めとして、今日まで伝承してきたことである（拙著『カクレキリシタンの実像——日本人のキリスト教理解と受容——』吉川弘文館、二〇一四年）。キリシタン伝来の初期ですら、大多数の信徒はキリシタン大名によって強制的に改宗させられたのであり、ことに民衆層は

キリシタン信仰の何たるかをほとんど理解していなかったのがある。何万人の日本人がキリシタンに改宗したというような宣教師の記録に接する時、不思議なことに、われわれは改宗者は敬虔なクリスチャンになったものと思ひ込みがちであるが、唯一絶対なる父と子と聖霊の三位一体のキリスト教の神観念や、その教義など知る由もなく、従来の伝統的な日本の神仏信仰の上に、南蛮渡りの更にご利益のある神が一つ加えられたにすぎなかったのである。ましてや長い潜伏時代、指導者たる宣教師として一人も存在せず、キリシタン教義書の所持すらできなかったのである。そのような状況下で、彼らはいつたいキリシタンをいかに理解し、その何を守り伝えてきたのであろうか。

これまで述べてきたところから明らかなように、従来の「隠れキリシタン」理解は、実像のキリシタン史とはかけ離れており、弱い立場の民衆が迫害に耐え、頑なに一つの思想、信条を守り通したという美しいイメージに固執してきたのである。本稿の編集者から執筆依頼を受けた時、求められた唯一の注文は「隠れ（潜伏）キリシタンたちが潜伏時代に、なぜ信仰を持ち続けることが可能だったのかという点に言及してください」というものであった。本誌の編集者ですら、キリシタンは弾圧に屈することなく信仰を守り通したというストーリーが頭の中にしっかりとインプットされているようである。キリシタンが命

がけで守り通したのは実はキリシタン信仰ではなく、日本人の諸宗教に普遍的な祖先崇拜だったのである。

「潜伏キリシタン」と「カクレキリシタン」

日本キリシタン史の正しい理解のためには、「隠れキリシタン」は「隠れてキリシタンの信仰を守り通してきた」という誤ったイメージを払拭せねばならない。再度、略史に目を移すと、「隠れキリシタン」という人口に膾炙している呼称は、一六四四年から現代にいたるまで、三七〇余年にわたり連綿として、秘かにキリシタン信仰を守り続けてきた人々が実在するという認識に立った表現である。「隠れ」という言葉の持つ独特なイメージが独り歩きし、そのことを実証的に明らかにする作業がなおざりにされてきたのである。

筆者は「隠れ」の代わりに、新たな時代区分概念に基づく「潜伏キリシタン」と「カクレキリシタン」という呼称を用いることを提唱している。潜伏キリシタンは、禁教令と寺請制度によって、必ずどこかの寺の門徒となることが義務付けられていた時代に生きていた。しかし、一八七三年に禁教令は撤廃されたのであるから、彼らが本当にキリシタンの信仰を保持していたのなら、全員カトリック教会に戻ったはずである。しかし、信仰を隠す必要のない時代が来たにもかかわらず、潜伏時

代と同様に教会には行かず、寺社との関係もそのまま継続し、先祖伝来のキリシタンの神々も併わせて拝んでいる人たちが現在にいたるまで存在しているのである。

両者には決定的な質的差異があり、また時代的にも大きな隔たりがあるので、異なる名称を用いて峻別することが、客観的な日本のキリシタン史理解の第一歩となるであろう。筆者が漢字の「隠れキリシタン」という表記を用いず、「カクレキリシタン」というカタカナを用いるのは、三〇年余りにおよぶ長崎県下各地のカクレキリシタン村落の調査研究の結果、彼らは「隠れてもいなければ、キリシタンでもない」ということが明らかだからである。今でも隠れているという誤ったイメージを与え続けることを避けるために、表意文字である漢字の「隠れ」ではなく、カタカナ表記を用いているのである。ではカトリック教会に復帰した「復活キリシタン」のグループは正しいキリスト教信仰を保持していたのかというと、無論そうではないが、紙数の関係でここではその問題には触れないことにする。

現代に生きるカクレキリシタンとは

最後に、現代のカクレキリシタン（一般には「隠れキリシタン」と呼ばれている）とはどのようなものか、簡単に説明しておこう。明治維新时期には長崎県下一円（長崎市内、外海町、平

戸島、生月島、五島列島全域が中心）、熊本県天草上島、福岡県三井郡大刀洗などにカクレの組織が残っており、その数も二万人前後であったと推定されているが、現在では組織はほとんど消滅し、生月島、外海、五島に小さな数グループが残るのみで、信徒総数も実数は一〇〇人に満たないといつてよい。

オラシヨ（祈り）や、洗礼・クリスマス・復活祭などに比定される諸行事も行われ、マリヤ観音・御前様（俗にいうところの納戸神）などキリシタン由来の御神体も拝んでおり、外から一見する限りキリシタンの要素が残っているかに思われるが、オラシヨは唱えていても呪文化しており、拝んでいる神や、行事の意味など信仰の中身に関しては全くといってよいほど伝承されていないのである。しかし、意味不明ではあっても、先祖が大切に伝えてきたものを絶やすことなく受け継いでゆくというのが、いわば彼らの信仰の根幹であり、その信仰は典型的な日本的民俗宗教の特色を余すところなく示している。祖先崇拜が中心であると述べたが、その深層には血穢・死穢のケガレ觀念がきわめて強く存在し、ケガレを発生させることによって生ずるタタリを強く恐れる、タタリ信仰がカクレキリシタン信仰の本質なのである。

（みやざき・けんたろう／長崎純心大学教授）